

令和2年度 教育事業（指導者等養成研修事業） 青少年教育施設ボランティア養成講座（28年目）

1 事業概要

愛媛県や高知県から参加した高校生・大学生・社会人が、ボランティア活動を行うための基本的な知識・技術を学んだ。また、当施設法人ボランティアがスタッフとして参加し、参加者と関わりながら全ての活動を行った。



2 事業の目的（ねらい）

国立大洲青少年交流の家が主催する教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティア人材を育成するとともに、青少年教育及び人材育成の観点から、地域社会へ貢献しようとする人材の育成を図る。

3 企画のポイント

本年度も法人ボランティアに、講座の一コマを担当させた。そのため、8月に当施設職員と法人ボランティアとで講義内容について検討し、計画的に準備を進められるようにした。また、柴崎氏や池田氏による講義を通して、ボランティア活動の意義や心構えなどを深く考えられるようにした。募集に当たっては、県内各大学や近隣の高校を訪問し、事業の趣旨を理解していただくことで、多くの学生に参加を働きかけていただくよう依頼した。

- 4 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
- 5 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・愛媛新聞社
- 6 期日 令和2年9月26日（土）～27日（日）
- 7 場所 国立大洲青少年交流の家
- 8 対象 教育支援ボランティア活動に興味・関心のある高校生、大学生、専門学校生、社会人等の青少年（29歳以下）
- 9 参加人数 20名 内訳：高校生16名・大学生3名・社会人1名
- 10 参加費 2,940円
- 11 講師 松山東雲女子大学講師 柴崎 あい 氏、諫早市こどもの城館長 池田 尚 氏
大洲地区広域消防事務組合消防署員、国立大洲青少年交流の家職員
- 12 日程

	10:00	10:30	11:00	12:00	13:30	15:00	15:30	18:30	20:00	21:00	22:30
26日（土）	受付	開講式	ボランティア活動の技術① (アイブレイク)	昼食・休憩	ボランティア活動の意義	休憩・移動	ボランティア活動の技術② (野外炊飯)	検温・入浴	青少年教育施設におけるボランティア活動①		就寝
	6:30	9:00	12:00	13:00	14:30	15:30	16:30	17:00			
27日（日）	起床 検温 朝食	自然体験活動の安全管理	昼食・休憩	青少年教育	青少年教育施設の現状と運営	青少年教育施設におけるボランティア活動②	閉講式	解散			

13 活動内容

【1日目】

「ボランティア活動の技術①」では、初めて出会う参加者の緊張をほぐすために、アイスブレイクを行った。柴崎氏による「ボランティア活動の意義」の講義では、視覚障害の方の体験談をもとに参加者同士で考える場面もあり、今後のボランティア活動に積極的に取り組もうとする意欲を高めることができた。「ボランティア活動の技術②(野外炊飯)」では、自由に具材をトッピングしながらピザを作った。活動前には、安全管理に関する研修を行い、安全な火起こしの仕方や器具の使い方などを学んだ。「青少年教育施設におけるボランティア活動①」では、2名の法人ボランティアが、自身のボランティア体験について、事前に準備していたことを生かし、実践の様子について分かりやすく伝えた。参加者は、熱心に耳を傾け、積極的に質問するなど、有意義な時間を過ごすことができた。



【2日目】

「自然体験活動の安全管理(普通救命講習)」では、大洲地区広域消防事務組合消防署員から心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使用方法について学んだ。池田氏による「青少年教育」の講義では、人と関わる際の考え方や人の支えとなる言葉かけの大切さについて学ぶことができた。「青少年教育施設の現状と運営」の講義では、青少年教育施設の役割を知ったり、青少年教育施設が実施する活動内容や成果を理解したりした。「青少年教育施設におけるボランティア活動②」では、法人ボランティアの登録制度について、職員が説明を行い、登録を働きかけた。



14 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

***満足：95%** ***やや満足：5%** ***やや不満：0%** ***不満：0%**

- 今回の講座では、学校で授業を受けるだけでは知ることのできなかつたことが学べました。
- 最初は参加者同士の仲を深めるためだけのレクリエーションやピザ作りなのかなと思っていましたが、自分が指導者の立場になった際に気を付けることを知ることができ、とても奥が深いなと感じました。
- 私はこの講座に友人を誘わずに来ました。そのため、みんなが初対面で最初は緊張していましたが、いい人ばかりでとても楽しく活動できました。ボランティアは他のところで活動していたのですが、そこでは知れないこともたくさん知れて充実した二日間でした。これからも様々なボランティアに参加して、自分自身成長していければなと思いました。

15 事業の成果

法人ボランティアがスタッフとして参加し講座の一コマを担当したことで、参加者は多くの体験談を直接聞くことができ、今後のボランティア活動のイメージをもつことができたと思われる。

16 事業の課題

法人ボランティアに登録しただけで終わることがないように、年間を通して当施設の教育事業や研修支援等の協力依頼をしていきたい。また、法人ボランティアとしての活動にとどまることなく、様々なボランティア活動に参加し、地域社会に貢献する人材を育成できるように、事業内容をよりよいものにしていきたいと思う。

(担当：企画指導専門職 村中 昭広)